

災害安全（気象災害・その他の災害）

「知る・備える」「行動する」

特別支援学校（※）

| 発達段階 | | 特別支援学校（※） | | | | | | |
|------|------------|----------------------|--|--|---|--|---|---|
| | | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学校 | 高等学校 | | |
| 気象災害 | 大雨・台風による災害 | 備える・知る | ・大雨や台風の時に、安全に登下校するための注意点を 知っている。（1人で登下校しない。一列で歩く。川や水路、マンホールには近づかない。かさは前が見えるように持つなど） | ・通学路において、大雨による浸水や増水等の危険箇所となり得る場所と状況を知っている。（マンホール、用水路や側溝、アンダーパス等） ・高潮の起こる仕組みや被害を知っている。 | ・発達した積乱雲が、局地的大雨をもたらすことがあることを知っている。 ・雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化することがあることを理解している。 ・ハザードマップ等で地域の災害リスクや避難場所・避難経路、連絡方法を、家族全員で確認している。 | ・高知県で過去に発生した台風や豪雨等の気象災害を知っている。 ・注意報、警報、特別警報等の防災気象情報や避難指示（警戒レベル4等）等の避難に関する情報の意味を理解している。 | ・風水害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ・注意報、警報、特別警報等の防災気象情報や、避難指示（警戒レベル4等）等の避難に関する情報の意味を理解している。 | |
| | | 行動する | ・大雨や台風の時の登下校の注意点に気を付けて、登下校することができる。 ・周囲の様子に気を付けながら歩くことができる。 | ・雨の降り方によって、川が短時間で増水することがあることを知っている。 ・大雨の時には、河川の増水に注意し、すぐに水辺から離れることができる。 | ・大雨や洪水の警報・注意報が発表されている時や川の異変を感じた時は、河川に近づかず、安全な場所に避難することができる。 ・避難する際に、より安全に避難できる方法（リュックやスニーカー等）を身に付けている。（両手を使える状態で。水害時の避難では長靴はNGなど） | ・注意報、警報、特別警報等の防災気象情報や、避難指示（警戒レベル4等）等の避難に関する情報から、十分な警戒と早めの避難行動をとることができる。（「高知県防災アプリ」等の活用） | ・家族や地域の方に、大雨や台風による風水害への備えや避難行動等について、呼びかけたり一緒に対応したりすることができる。（「高知県防災アプリ」等の活用） | |
| | 土砂災害 | 備える・知る | ・大雨等の際には、土砂災害が起こる場合があり、がけなどが危険になることを知っている。 | ・通学路の危険箇所と避難場所を家族で確認している。 | ・土砂災害（がけ崩れ、地すべり、土石流）の特徴や前兆現象を知っている。 | ・高知県の土砂災害の発生状況を知っている。 ・大雨警報（土砂災害）、土砂災害警戒情報等の防災気象情報の活用の仕方を理解している。 | ・地域の土砂災害のハザードを踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 | |
| | | 行動する | ・大雨等の際に、がけなどから離れて、安全に登下校することができる。 | ・土砂災害の危険性があるときは、危険箇所に近づかない。 | ・土砂災害の前兆現象に気付いたら、家族や近所及び役場に知らせ、すぐに避難することができる。 ・避難の際の連絡方法を家族で話し合っている。 | ・雨量や大雨警報（土砂災害）、土砂災害警戒情報等に注意し、早めに安全な場所に避難することができる。（「高知県防災アプリ」等の活用） | ・家族や地域の方に、土砂災害への備えや避難行動等について、呼びかけたり一緒に対応したりすることができる。（「高知県防災アプリ」等の活用） | |
| | 突風・雷による災害 | 備える・知る | ・雷や竜巻から身を守る方法を知っている。 | ・雷の特徴について知っている。（雷は周りより高い所に落ちやすい、木や電柱等からの側撃雷を受けることがある） | ・積乱雲は、「竜巻等の激しい突風」や「雷」を伴うことがあることを知り、その危険性を理解している。 | ・気象災害に備え、天気予報や雷注意報、竜巻注意情報、ナウキャスト等の防災気象情報の活用の仕方を理解している。 | ・防災気象災害に備え、天気予報や雷注意報、竜巻注意情報、ナウキャスト等の気象情報の活用の仕方を理解している。 | |
| | | 行動する | ・雷鳴が聞こえたり竜巻が見えたりしたら、頑丈な建物の中にすぐに避難することができる。 | ・雷鳴が聞こえたり竜巻が見えたりしたら、頑丈な建物の中にすぐに避難することができる。 | ・積乱雲が近づく兆しがあれば、危険な場所から離れ、頑丈な建物に避難することができる。 | ・屋外活動の前には、天気予報や雷注意報、ナウキャスト等の気象情報を確認し、安全な行動を選択することができる。（特に、屋外活動の前には防災気象情報を確認）（「高知県防災アプリ」等の活用） | ・屋外活動の前には、天気予報や雷注意報、ナウキャスト等の気象情報を確認し、安全な行動を選択することができる。（特に、屋外活動の前には防災気象情報を確認）（「高知県防災アプリ」等の活用） | |
| | 大雪による災害 | 備える・知る | ・積雪や路面の凍結等の際には、気を付けてゆっくり歩く必要があることを知っている。 | ・積雪や路面の凍結等による危険となる状況や通学路における危険箇所を知っている。 | ・積雪や路面の凍結等が起こりやすい状況を天気予報等から知り、安全に登下校に備えた準備をすることができる。 | ・積雪、路面凍結時に、安全に通学するための注意点を理解している。（時間の余裕、自転車は使わない、車の動きに注意するなど） | ・積雪、路面凍結時に、安全に通学するための注意点を理解している。 ・（スキー研修時も含め）雪上での安全な歩き方や雪崩の特徴や危険性について理解している。 | |
| | | 行動する | ・積雪や路面凍結の際には、ゆっくり歩く、すべりやすい所を通らないことなどに気を付けて、より安全に登下校する。 | ・積雪や路面の凍結等の際には、通学路の危険箇所に注意しながら、より安全に登下校する。 | ・積雪や路面凍結等への備えを活用しながら、より安全に登下校する。 | ・気象情報を利用して積雪や路面の凍結等を予見し、登下校時の安全行動に結び付けることができる。 | ・気象情報を利用して積雪や路面の凍結等を予見し、登下校時の安全行動に結び付けることができる。 | |
| | その他の災害 | 火災 | 備える・知る | ・非常ベルが火災の知らせだと知っている。 ・火のまわり方と煙の危険を知っている。（火は上に行く。煙は高い所に集まる。火元から離れる。風上に逃げる。煙を吸わないようにする。） | ・消防署や警察署等の関係機関や消防団など地域の人が、火災や事故等の防止に努めていることを理解する。 ・火事と救急は119番に通報する。 ・火災からの避難場所を確認している。（周りに燃える物のない広い公園等） | ・燃焼の3要素（点火源・酸素供給源・可燃物）を理解し、火災防止の可能な対応を考えることができる。 ・自分の家や学校の消火器具（消火栓や消火器等）の設置場所を知っている。 | ・火災の原因と特性について理解している。（劣化した電化製品、プラグとコンセントの隙間のほこりや湿気等原因による出火等） ・消火器具の使い方と初期消火の仕方（消火器、油鍋の火への濡れタオル等）を知っている。 | ・感震ブレーカーなどによる通電火災の防止方法を知っている。 ・消火器具の使い方と初期消火の方法（消火器、油鍋の火への濡れタオル等）を理解している。 |
| | | | 行動する | ・火災を発見したら、自分の安全を守り、可能な限り大声で周囲の人に知らせる。 ・火のまわり方と煙の危険を踏まえた避難行動をとることができる。（火元から離れる。風上に逃げる。煙の中を避難するときは姿勢を低くする。） | ・火災の情報に基づいた避難行動をとることができる。（火災発生場所を踏まえた避難場所及び避難経路等） | ・様々な場面に応じた避難行動をとることができる。 | ・様々な場面に応じた避難行動をとることができる。（可能であれば消火器を使用して、初期消火する。火が天井に回ったら避難） | ・様々な場面に応じた避難行動及び避難誘導を行うことができる。 |
| | | 国民保護に係る対応（弾道ミサイル発射に） | 備える・知る | ・Jアラート等の弾道ミサイル発射に係る警報音を知っている。 | ・弾道ミサイルの危険性（着弾した際の爆風や破片等による危険）と避難の仕方を知っている。 | ・弾道ミサイルの危険性から、登下校中や自宅にいる場合の適切な避難行動の仕方を考えることができる。 | ・弾道ミサイルの危険性から、様々な場面の適切な避難行動の仕方を考えることができる。 | ・弾道ミサイルの危険性から、様々な場面の適切な避難行動の仕方を考えることができる。 ・国際情勢に関心を持ち、弾道ミサイル発射等に係るニュースを積極的に入手し、日常の安全行動の心構えをしている。 |
| | | | 行動する | ・Jアラート等のサイレンを聞いたら、大人の指示に従い、速やかに避難行動をとることができる。（建物の中又は地下に避難し、姿勢を低くし、頭部を守る。） | ・学校にいる場合に、弾道ミサイルの発射情報を聞いたら、避難行動をとることができる。（校舎内：窓からなるべく離れ、机の下もしくは床に伏せて頭部を守る。校舎外：建物の中に避難できなければ、遮へい物のない校庭の中心ではなく、物陰で身を隠すか地面に伏せて頭部を守る。） | ・登下校中や自宅等にいる場合、弾道ミサイルの発射情報等から、適切な避難行動をとり、安全確認が取れるまで待機することができる。 | ・様々な場面に応じて、弾道ミサイルの発射情報等から、適切な避難行動をとることができる。 | ・様々な場面に応じて、弾道ミサイルの発射情報等から、適切な避難行動及び避難誘導を行うことができる。 |

※特別支援学校・特別支援学級における資質・能力については、対象の児童生徒の発達段階において、適切な段階を選択し、具体化して実践する。なお、小学校低学年の内容の習得が難しい児童生徒については、特別支援学校学習指導要領を参考にし、スモールステップで実践する。